

平成28年11月16日

平成28年

第11回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

平成28年第11回大田区教育委員会定例会会議録

平成 28 年 11 月 16 日（水曜日）午後 2 時から

1 出席委員（6名）

芳 賀 淳 委 員	委員長
藤 崎 雄 三 委 員	委員長職務代理者
横 川 敏 男 委 員	
鈴 木 清 子 委 員	
尾 形 威 委 員	
津 村 正 純 委 員	教育長

2 出席職員（10名）

教育総務部長	水 井 靖
教育総務課長	井 上 隆 義
副参事（教育政策担当）	曾 根 暁 子
副参事（教育施設担当）	布 施 満
学務課長	森 岡 剛
指導課長（幼児教育センター所長兼務）	増 田 亮
副参事	田 井 俊 行
学校職員担当課長	佐 藤 國 治
教育センター所長	岩 田 美 恵 子
大田図書館長	山 中 秀 一

3 日程

日程第1 教育委員の報告事項

日程第2 委員長選挙

日程第3 部課長の報告事項

~~~~~  
(午後 2 時開会)

### ○委員長

ただいまから、平成28年第11回教育委員会定例会を開催します。

本日は傍聴希望者がおります。

委員の皆様には傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

## ○委員長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

## ○委員長

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により、公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力よろしくお願いいたします。

これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしていますので、会議は成立しています。

次に、会議録署名委員に藤崎委員を指名します。よろしくお願いいたします。

## ○藤崎委員

はい。

## ○委員長

それでは、本日の日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

## ○事務局職員

日程第1は、「教育委員の報告事項」でございます。

本日は、藤崎委員より報告がございます。よろしくお願いいたします。

## ○藤崎委員

資料)「育てるって?」

藤崎です。よろしく申し上げます。

今、お手元に1枚の紙をお渡ししたのですが、ほとんど余白の多いメモ的なものなので、もしお気づきになった点があったら、どんどんご自身で書き込んでいただければと思っています。

私は仕事柄 企業研修が多く、「人材育成をするためには」とか、「どうも最近はチャレンジ精神が少なくて」とか、いろんな要望を受けるのですが、自分も含めて、そもそも「人を育てる」ってどういうことなのかと自問する時があります。それぞれいろんなアイデアがあるでしょうし、考えもまちまちですので、今日は皆さんと共有する目的で、私が仕事で使っている題材で、画像を見てもらいながら進めていきたいと思っています。

そこに書かせていただいたのは、相手が大人に限らず、子どもであろうがということなのですが、一つでもやれることを増やしていくということ、育てていく、または成長していくことを前提にさせていただけるのであれば、指導側に立つ人間としては、この2項目は少なくとも欠かせない点だと思っています。いろいろある中でこの二つに絞って、話を進めていきたいと思えます。

まず一つ目は、「やる気を起こす」ということです。これはよく、「やる気がない」とか「モチベーションを上げてやれよ」という言葉に、我々、私自身も踊らされたりします。「モチベーションを上げてやる」とは、やる気がない人間にやる気を出させることですが、そう言われても、そもそもどうしたらいいのかわからないですよ。このように「やる気」とか「モチベーション」という言葉はあまりにも抽象概念が高過ぎるので、私は、せめて入り口を三つぐらいに分けておきましょうと申し上げています。

動かない人は、動かないだけの理由があるわけです。例えば三つと言っているのは、「やりたい」と思わないから動かないのか、「やれそう」と思わないから動かないのか、「やらねば」と思わないから動かないのかというこの三つぐらいに、一旦ちょっと分けてみませんかということです。

どれで動かないのかと想定できれば、それぞれが、自分の知恵がありますので、じゃあこういうアプローチを試してみようというものがあるのです。繰り返しますと「やりたい」と思うか思わないか、「やれそう」と思うか思わないか、「やらねば」と思うか思わないか、なのです。

想像してみてください。例えば職場で、実力はあるのだけど、最近どうもやる気が見えないという部下や、メンバーが仮にいたとします。その人を捕まえて、「おいおいどうした。お前、前回やったではないか、お前だったらできるだろう。やらないとどんな大変なことになるかを知っているだろう。どうしてやらないのだ。」とアプローチをかけたときに、本人は、「いや、そんなの知っています。やり方もわかっているし、やらないと周囲に迷惑をかけることもわかっているのです。」と。動かない理由が、「そもそもやる意味がわからない。」「それをやると、どんないいことがあるのですか。」という人に対して、先ほどの、「やれそう」と「やらねば」スイッチを押しても、そのボタンを何度押ししても、そもそも「やりたい」ボタンが押されないからには、その人は動かないということになります。

一方で、今度は『「やりたい」気持ちはあります。「やらねばならない」というのも知っています。でも無理です。』という人もやっぱりいるわけです。やったことがない、時間がない云々かんぬん。その人に同じように、「やるとこんないいことが起こるぞ。」とか、「やらないとこんなやばいことになるぞ。」と言ったところで、もう泣きたい気持ちになるだけであって、「そんなのはわかっています。どうすればいいのですか。」と言う。そこが足かせになっていて動かない人もいるのです。最後の例としては、「そんな大事なことだったのですか。」と、のほほんとしている人もいるのです。言葉を選ばずに言うと、お尻をぽんと蹴飛ばさないといけない、たたかないといけないという子もいる。これは今、「子」と言いましたが、子どもに限らず、組織の中での大人も一緒です。

つまり、やる気を起こさせるという大きい言葉で捉えるのではなくて、そもそも動かない理由が何なのかなと考えます。

「やりたい」がない場合、それをやることによって、その先にあるもっとうれしいものか楽しいもの、自分にとって愉快になるものが手に入るのか入らないのかというイメージを持たせたほうがいいのです。堅苦しく言うと、「目標の魅力を高める」というアプローチになります。

次に、「やれそう」というのがない場合は、これは達成の可能性が低いわけなので、達

成の可能性を上げるというアプローチになります。例えば「時間がない」と言うのだったら、「では、朝来てから職場で何をやっているの」と聞き、「これをやって、あれやって、これやって…」と挙げたときに、「その2番目と3番目のもの、それは俺がやるから、時間があくだろう。」「だったらできます。」というふうに、その人の達成の可能性を上げてあげるアプローチというのが、この「やれそう」ボタンを押すということになります。

一方、「やらねば」というところは、残念ながら本人にその自覚が無いので、危機感を高めるということになってしまいます。殴るぞと言ってもしょうがないので、一番わかりやすいのは、放置リスクを想像させます。このまま手を打たずに放っておいたらどうなると思うかというアプローチが、一応わかりやすいと思います。そうすると、「お客様にとってもっと迷惑がかかる」とか、「出入り禁止になる」とかに本人が気づけば、「じゃあ今日やるか」という話になるわけです。

まず、「やる気」という言葉を、一歩目を踏み出すこと、動き出す機会、きっかけと置き換えるのであれば、アプローチの種類は一つではなくて少なくとも三つぐらいはあることを、動くきっかけをつくるためのポイントとして出させていただきました。

これは、もう一度言いますが、これをやれば必ず動くという保障はないです。三つのうちどれが一番効果があるかというのも、これは時と場合によって違います。ただ言えることは、この三つの中で、ご自身にとって使い勝手のいい、使いなれているものがあると思います。

これは一般論で恐縮なのですが、よく言われるのは、自分が押され続けてきたボタンというものです。例えば、私は55歳になりますけども、私の先輩方、民間の会社で働いて、とにかく押されまくったボタンは、一番最後の「やらねば」ボタン。「お前、わかっているのだろうな。」「ボーナスなしだ。」とかです。もう今では絶対使ってはいけませんが、「死ね」とか。つまり、やらないと大変なことになるぞというボタンをずっと押され続けてきた経験があります。

そうすると、私はそのボタンは効果があることがわかっているのです。なぜならば、今、死なないで生きている、自分で飯を食っているということは、そのボタンにある程度効果はあるのだと、自分で実証しているわけです。ですので、使われたやり方を、自分で使ってしまうという傾向になりがちなのです。なので、自分も、やらねばボタンを押そうとする。

ちょっとお恥ずかしいのですが、私がやってしまった失敗は、自分が押したボタンで動かない人間に対して、「やる気のないやつ」というレッテルを張ってしまっていた時期がありました。それは、私が押されて動くボタンが、そうであっただけであって、私が人と同じボタンを押しても、その人がそれで動くかどうかの確証はないのです。きれいに1/3ずつではないですが、少なくとも一つのボタンだけでは動かない人のほうが多い。ただ、ほかのボタンを試す前に、「やる気のないやつ」と私が決めつけて、彼らの可能性の芽を摘んでいたという経験もたくさんあります。メンバーのやる気をそぐとか、場合によっては辞めていくとか、ほかの部署に異動するという嫌な思い出も持っています。

皆さんに、ここであえて重ねてお伝えしたいのは、ボタンは少なくとも三つはありますので、自分が使いなれているボタンを押したときに動かない人間に、「やる気のないや

つ」というレッテルを張る前に、まだあと二つはあるぞということを思い出してみてください。これを研修などで、役員レベルから中堅、若手を相手に、事例を交えながら説明をしています。これが1点目の「やる気を起こす」ということです。

2点目は「可能性にふたをしない」というものです。これは私ではなくて、研修の教材でも使わせてもらっている映像を見てもらおうと思います。

これはユーチューブで観られる「植松 努」さんという方の映像ですが、私は何回も見ています。見るたびに笑ったり泣いたりしていますので、皆さんにもぜひ見ていただこうと思います。

—(映像開始)—

では皆さん、改めましてこんにちは。緊張がほぐれました。

今から、皆さんに時間をかりてお話を聞いてもらいます。それは、「思うは招く」というお話です。私のお母さんが、中学生のときに教えてくれた言葉です。「思ったらそうなるよ」という意味です、思い続けるって大事です。私は今日のお話で、皆さんの中から仲間が見つかったらいいなと思っていますので、ぜひ仲間になってほしいです。

私は、今から47年前に生まれました。植松努といいます。私は今、北海道の真ん中辺にある赤平というまちで、生まれて初めて会社を経営しています。私たちは、そこで本当はリサイクルに使われるマグネットという機械をつくっています。でもその傍らでロケットをつくります。

私たちは宇宙開発ができて、丸ごとロケット作れて打ち上げできるようになっている。そして人工衛星も丸ごと飛ばせるようになって、そして世界に三つしかない、日本には私の会社にしかない宇宙と同じ無重力状態をつくる実験装置も持っています。どれも売っていないから、買うことができません。でも自分たちで頑張っつくりました。でも私にとって宇宙開発は、私の夢ではないのです。私にとって宇宙開発は、私の手段にすぎません。

私は、今から47年前に生まれました。小さかった私に、ばあちゃんが大事なことを教えてくれました。私のばあちゃんは、北海道の北にある樺太という島で、昔から自動車の会社をやっていて、頑張っつ働いてお金をためて豊かに暮らしたそうです。でも樺太は1945年、突然ソビエト軍が攻めてきて、たくさんの方が殺されて、ばあちゃんは自分が貯金したお金が全部紙くずになったことを知ったそうです。だからばあちゃんは、小さい私に教えてくれました。お金は値打ちが変わってしまうものだよ、だからくだらない。お金があったら貯金などしないで本を買いなさい、頭に入れなさい。それは誰にも取られないし、新しいことを生み出すのだよと教えてくれました。だから私は、本屋が大好きな子どもになりました。

また私には、大好きなじいちゃんがいました。大きくて優しいじいちゃんです。私とじいちゃんとの一番の思い出は、アポロの月着陸です。一緒にテレビを見ました。私が覚えているのは、じいちゃんが見たこともないほど喜んでる姿です。ほら見れ、ほら見れと、人が月へ行ったぞ、お前も月へ行けるぞと喜んでるのです。私は、そんな喜んでるじいちゃんを見たことなかったです。だから私は、その笑顔をもう一回見たかったで

す。だから本屋に行ったら、私は飛行機・ロケット本を手にとったのです。そしたらじいちゃんは、でっかい手で私の頭をなでてくれるのです、褒めてくれるのです。私はきっとじいちゃん的笑顔が見たくて、きっと飛行機・ロケットが好きになってしまったのだろうと思います。

私はその後も、いろんすばらしい本に出会います。そして中学生になったころには、私の夢というものは飛行機やロケットの仕事をするようになっていました。自分なりに一生懸命勉強をしていました。でも中学校の先生が、私に教えてくれました。そんな夢みたいなこと言っていないで、テスト勉強をしなさいと言われてました。確かに私は飛行機・ロケットの勉強はしたけども、学校の勉強はほったらかしだったのです。何にもしていませんでした。

そして先生はさらに教えてくれます。そもそも宇宙なんちゅうものは、よほど頭がよくないと無理だ、すごくお金がかかるのだぞ、だからそれは別世界の話だ、お前などにできるわけがないと教えてくれました。私はとても悲しくなりました、そして考えたのです。夢って何だろうと。できそうな夢しか見てはだめなのでしょうか、でも、できるかできないかは、一体誰が決めるのだろうと思いました。やってみないとわからないはずなのに、やったこともない人が決めるのは変ではないのかなと思いました。そして私は、今できないことを追いかけることが夢というのではないのかなと思ったのです。

ところがそうではないみたいです。なぜならば、私はいろんな大人におどされたのです。ちゃんと勉強しなければいい学校に行けなくて、いい会社に入れなくて大変だよと。私はあまり成績がよくないです。だから心配になって質問をしました。いい会社って何だろうと。そしたら大人が教えてくれました。安定していて、楽をしてお金をもらえるのがいい会社だと言われました。私は納得できませんでした。なぜならば、勉強すればするほど能力が身につくはずで、ところが、せっかく身につけたその能力を、なるべく使わないで楽をするために勉強するのだと言われたのです。そんなら勉強しなくていいのではないのと思ってしまったのです。

でもお金があると、いいことがいっぱいあるかもしれません。例えば、このすごい車、私ではないです。私ではないです、これは。この車が手に入るのは、お金持ちだからでしょうか、全然違いますね。この車が手に入るのは、お金で買うことができるのは、どこかで誰かが頑張っているからなのです。もっといいものを作ろうと思って、一生懸命研究して、努力している人たちがいるから、売ってもらえているから買うことができているだけの話なのです。実はお金は、大したことないのです。だってお金が必要な夢とかお金がないと無理だという夢、それは実は誰かがしてくれるサービスにすぎないので、これを待っているだけの話なのです。

そして自分ができなければできないほど、してもらうしかありません。ということは、生きていくために、どんどんお金がかかってしまうということなのです。ところが自分ができると、できることがあればあるほど、それはしてあげられるから仕事になるかもしれないということなのです。

ということは、人間が生きていく上で大事なことは、できなかったことができるようになることなのかもしれません。それが、もしかしたら人間にとってすばらしいことかもしれないかもしれません。だとしたら、私が考えた、今、できないことを追いかけるのが夢なのではない

のというのは、正しいのかもしれないのです。

ところが、私は一生懸命自分の大好きなことを追いかけたのです。でもそれは、周りの人に理解されなくなりました。友達からも先生からも、そして親からも、そんなことをしていて大丈夫なのかと言われるのです。意味なくね？、何それ自慢？ と言われて、私はどんどんひとりぼっちになっていくのです。自分の好きなことを人にしゃべることができなくなってしまいます。

でも、そんな私を助けてくれた人たちがいました。その人たちは、本の中の人たちです。私を助けてくれたのは、ライト兄弟だったりエジソンだったり。彼らも、誰にも信じてもらえない人たちでした、応援してもらえなかったのです。でも彼らは一生懸命頑張ったのです。その人たちが、私を助けてくれました。だから私は頑張ったのです。自分の好きことを、もっと好きになったのです、もっと伸ばしていったのです。

私は紙切りが得意でした。でも、それがどんどん発展して行って、どんどんものがつくれるようになって、そして私は自分の会社をつかって、リサイクルのマグネットをつくることができるようになったのです。私は会社を経営することになってしまいました。私は、生まれて初めて会社経営をしたのですが、びっくりするぐらい、いきなり大成功です。もう年商が10倍ぐらいになってしまったのですよ。そしていい気になって、大失敗です。

2億円、借金つくりました。自分のせいだと思いました。全部自分で何とかしなければと思って、一人で抱え込みました。自分を責めました。そして日本中飛び込み営業で歩いたら、ひどい目にばかり遭います。だから飛行機に乗るたびに、今日こそ、この飛行機落ちてくれと一生懸命祈りました。でも飛行機は落ちませんでした。やがて私は成長して、えげつないことも冷酷なこともできるようになって、競争相手をやっつけたり、陥れたりできるようになりました。でも、その人にどんな家族がいるかなんて、ひとつも考えませんでした。

やがて売り上げが増えていくと、銀行の人が褒めてくれました。でも私の心はすっかりおかしくなっていて、誰も信じることはできません。ひとりぼっちなのです。そして何もかも合理でしか考えられないのです。やがては自分の大切なものも全部捨ててしまおうとまで思ったのです。でもそんなときに、私は会社が苦しかったものだから、日本中歩いていて、いろんな人にアドバイスされたのです。それは青年会議所に入ったらいいと、売り上げにつながるよと言われてました。私はよこしまな気持ちで青年会議所に入りました。ところが、売り上げにはつながりませんでした。でも、そこで私はかけがえのない 知らなかった人たちと出会うチャンスをもらったのです。私は、そこで友達をつくりました。その友達が私を誘ってくれました。

児童施設に、私はボランティアで手伝いに行くことになったのです。ところが、一生懸命準備して行ってみた、その児童養護施設の子どもたちは、親からひどい目に遭った子どもたちでした。最初は誰も近寄ってきませんでした。でも、一生懸命関わっていたら、帰るころには、帰らんとってしてくれました。スキンシップも求めてくれました。友達と一緒に、いや、いいことをしたよねって、今日打ち上げどこでやろうかなんて帰ろうと思っただらば、男の子が自分の夢を聞かせてくれました。その子の夢は、親ともう一度暮らすことだそうです。信じられんと思いました。何でひどい目に遭わせた親のことを、まだ愛し



まうのです。

だからこそ私は、「どうせ無理」という言葉をなくそうと思いました。これがなくなったら、いじめや暴力や戦争がなくなるかもしれない。児童虐待もなくなるかもしれないと思いました。だから私は、誰もが、どうせ無理だと思われている宇宙開発をしてみようと思ったのです。

ところが、私は、ロケットは危ないからつくってはいけないということを知っていました、だから諦めていました。でも神様がいたのです。神様が、北海道大学の永田教授に会わせてくれました。永田教授は、奇跡的に安全なロケットを研究していました。そして奇跡的にお金がなくて諦めようとしていました。私は、お金はないけど、物をつくれるのです。そんな二人が出会ってしまったのです。以来、私は人の出会いには意味があるのだなって思うようになりました。神様が、あなたとあなたは会いなさいと会わせてくれているのです。今日、皆さんと会えているのも、神様がそろそろ会ったときなと言ってくれたのだと思います。

私と永田先生は助け合えたのです。なぜならば二人とも足りなかったからなのです。実は、人は足りないから助け合うことができるのです。足りていたら人の助けなんか必要ないではないですか。人は足りないから助け合えるのです。だからこそ、足りないことをばかにしてはいけないのです。恥ずかしいと思う必要もないのです。大事なことは、自分は何をやっても中途半端だなんて自分を責める必要なんか全くなかったのです。実は、中途半端というのは、何もしないよりも、何もできないよりも、全然いいのです。ちょっとできているだけましなのです。だから自分を責めることなく、足りない自分をマイナスに思う必要なく、一生懸命できることをすればよかったです。

そんな私たちは、助け合って、今では宇宙開発ができるようになりました。いろんな研究者が私の会社の実験や研究に来てくれるようになりました。そして今では、年に1万人もの子どもたちが修学旅行や見学旅行で私の会社に来てくれるようになりました。正直言うと、会社17人しかいないです。ちょっと大変です。けども、一人でも多くの子どもたちが可能性を奪われなくなったらいいなと私は思っています。

私は信じているのです。「どうせ無理」をなくせば、いい社会が来ると思っています。でも私一人にできることに限りがあるから、どうしても仲間が欲しいのです。これは私の代で終わらない夢のかもしれないのです。だからこそ皆さんの力を貸してほしいのです。皆さんが今日から、「どうせ無理」という言葉にあってしまったときに、「だったらこうしてみたら」って言うてくれたら、ただそれだけで、いつか「どうせ無理」がなくなって、この世からいじめも虐待もなくなるのです。だから、ぜひ皆さんの力を貸してほしいです。

学問というものがあります。私たちは学問を一生懸命学んできました。じゃあ学問というのは誰かに評価されるためのものだったのでしょうか。とんでもない間違いですね。学問というのは社会の問題を解決するために、人類が生み出したものなのです。必死になって築き上げたものなのです。じゃあ教育って何でしょうか。教育というのは、失敗の避け方とか責任の避け方という要領いい生き方を教えるためのハウツーでしょうか。全然違いますね。教育というものは、死に至らない失敗を安全に経験させるためのものだったのです。でも、それがすっかりおかしくなってしまったのです。

なぜかという、失敗をマイナスだと思っている大人がたくさんいたからなのです。その人たちが、みんなの可能性と自信を奪ってきたのです。でも大丈夫です。これからの日本をよくしていくためには、世界をよくしていくためには、やったことがないことをやりたがる人、諦めない人、工夫する人が増えればいいのです。「どうせ無理」に負けない人が増えればいいのです。

じゃあその人たちは一体どこにいるのか、それはみんなです。全ての人があるのです。なぜならば、私たち人間は必ず小さいころを経験するからなのです。皆さんも思い出してみてください。小さいころは、ボタンがあったら押してみたかったのです。ハンドルがあったら回してみたかったのです。そして余計なことをするのはないと怒られるものだったのです。実は、生まれたときから諦め方を知っている人間なんて、この世に一人もいないのです。皆さんは全員諦め方を知らないで、輝いて生まれてきたのです。でも私たちは、諦め方をちょっと習ってしまっているかもしれません。

そんな自分たちの自信を取り戻すための、とてもいい方法が一つだけあります。それは、「やったことがないことをやってみる」なのです。やったことがないことをやったら、それだけでちっこい自信が湧いてきますから、ぜひ皆さんはやったことがないことに挑んでみてほしいと思います。でもやったことがないことをやると、失敗するのです。これは実験映像です。ロケットが火を噴いて飛びました、飛びませんでした、火を噴いて落ちました。どうすればいいのか。コントローラーを捨てて、逃げる。今どきこんな昭和な逃げ方をする人、なかなかいないのですけどね。この実験映像が示していることは、まずいと思ったら逃げるもありということなのです。

私が知っている限り、真面目で優しく責任感のある人ばかり死んでしまうのです。死なないでほしいです、生き延びてほしいのです。だからまずいと思ったら、逃げるのも絶対ありなのです。でも、そのときに失敗した自分を、逃げた自分を、諦めた自分を責めないでください。へこまないでください。そんなことする必要はないです。でもこんなとき、自分の心の中は、「苦しい」とか、「つらい」とか、「申しわけない」とか、「くやしい」とか、「悲しい」とか、「恥ずかしい」が、もうぐるぐるして大変なことになるのです。でもこれ、ぐるんぐるんしている最中は、「ただいま成長中」と言えばいいのです。そしたら、ぷりっと一皮むけるのです。だからぜひ、「ただいま成長中」って言うてみてください。

そんな私たちは、今、生まれて初めての1回切りの人生をぶっつけ本番で生きているのです。そんな私たちは何のために生まれてきたのか。私たちにとって失敗というものは、よりよくするためのデータにすぎませんから、ぶっつけ本番だから失敗して当たり前です。でも失敗はよりよくするためのデータだと思って、乗り越えてほしいのです。そして私たちは、してもらうためや諦めるために生まれてきたのではないです。そんなことのために生まれたのではないです。私たちは世界を救うために生まれました。

世界を救うのは簡単です。世界を構成する全ての人間が、自分なんてと思わなくなるだけで、世界は救われてしまいます。今日から一人ひとりができる世界の救い方です。だからぜひ、今日から救ってください。自分なんてと思わないでください。そしてこれから先、私たちがやっていくべきことは、できない理由を探すことではありません。できる理由を考えることです、ただそれだけで世界はきっとあつという間によくなるのです。

私の長い話が、やっそこ終わります。私は小さいころから飛行機・ロケットが好きでした。でもやったことがない人は、「できるわけない」とさんざん言いました。でも母さんは、「思うは招く」と教えてくれました。思い続けたらできるようになりました。だから思い続けるって、きっと大事です。

そして最後に、この一言があれば、どんな夢もかなうよという言葉プレゼントして終わりにしたいと思います。それは、「だったらこうしてみたら」で「夢はかなう」なのです。考えてみてください。自分の夢を誰かにしゃべったときに、「いや、それ無理だわ」って言われたら、元気なんかなくなります。でも、「だったらこうしてみたら?」「この間本屋にこんな本売っていたよ」「この間テレビでこんな番組やっていたよ」と言われたら、もっと元気が湧くではないですか。そのほうが絶対楽しいです。

だからお互いに夢をしゃべって、お互いに「だったらこうしてみたら」と言っていたら、全員の夢がかなってしまいます。全員有名人になってしまいます。すばらしいですね。だからぜひ、この「だったらこうしてみたら」が世界中ではやったらいいなど。そして、「どうせ無理」がなくなりますとと思っていますので。ぜひみんなで「だったらこうしてみたら」をはやらせていきたいと思っています。それがきっと、私たちが出会えた意味かもしれませんから、お互いに助け合っていきたいと思っています。ということで、私、これからも頑張りますので、これからもせっかく出会えましたから、仲よくしてほしいと思います。

今日は、本当にどうもありがとうございました。

— (映像終了) —

## ○藤崎委員

20秒だけ時間を差し上げますので、自分の頭の中に、今一番残っているキーワードを隣に座っていらっしゃる方と共有してみてください。

私にとってこの映像は非常に示唆に富んでいるというのと、人材育成をということを考えていると、上下関係に限らず、横連携の上でも意味のある内容が多々出ているのです。

例えば企業研修では、視聴後にフリーディスカッションをさせます。何が自分に残ったか、今後職場の中でこれを生かすとしたらというテーマで、2時間半ぐらい議論を行います。そこで出たものから、皆がこれを使いたいよねというものを抽出し、絞り込みながら、全員のルールというのを決め、あとは家庭に戻っても使えるものということを含めながら、やりとりをしてもらっています。

この映像を通して植松努さんの言いたかったことは〇〇ですと、私がまとめられるようなものではないので、手元資料に書かせていただいたものは、彼が言っていた言葉です。私もよく使ってしまうので耳が痛いですが、「どうせ無理」という言葉は、非常に便利で、非常に使い勝手がよくて、確実に相手の可能性の芽を摘むという言葉です。この言葉を、「だったらこうしてみたら」に変えるだけで、可能性や希望というのが少し出てくるのではないかというのは、彼が非常に強く言っていた話でした。

最後に、ちょっと長くなってしまいますが、なぞなぞを出します。

「子どもの学習」、「大人の学習」というのを説明するときに、こんな話をします。

「冷蔵庫に象を入れる三つのポイントは何か。」

はい、隣の方とちょっとしゃべってみてください。子どもに対して出すような、なぞなぞです。冷蔵庫に象を入れる三つのポイント。これは、時間をかけるところではないので答えを言ってしまうと、「ドアを開ける」「象を入れる」「ドアを閉める」の三つなのです。

さて、問題はここからです。「マンモスを冷蔵庫に入れる四つのポイントは何でしょうか。」

先ほどの「象を冷蔵庫に入れる三つのポイント」は、冷蔵庫の「ドアを開ける」「冷蔵庫へ入れる」「ドアを閉める」でした。では、マンモスを冷蔵庫に入れる四つのポイントは何でしょうか。

答えを言ってしまうと、マンモスを冷蔵庫に入れる四つのポイントは、「冷蔵庫を開ける」「象を出す」「冷蔵庫へ入れる」「ドアを閉める」です。

なあんだ？という話なのですが、子どもの学習の特徴は、最初から中がからっぽだということなのです。従って、吸収が早いです。どんどん詰め込めます。

しかし、大人に何かをやってもらうとき、同じようにはいきません。つまり子どもに教えるときと、先生方に何かを伝えるときは、絶対違うのです。大人は、もう中に何かが入っているのです。ですから、1回出してもらって、余白をつくってからしか、入れられないのですよ、ということなのです。

これが、我々が使っている「大人の学習」、「子どもの学習」の一番大きい違いです。中に既に入っているか入っていないか、それをわかっていて、どういうふうに伝えるかということです。皆さんがあちこちで、飲み屋でも使えるような、なぞなぞを「大人の学習」「子どもの学習」というのを最後に伝えさせてもらって、私の報告を終わります。

どうもありがとうございました。

## ○委員長

はい、ありがとうございました。

ただいまの報告にご意見、ご質問などはありませんか。

## ○教育長

最初の「やる気を起こす」というところでお話をさせていただきます。

学校教育という場面で申し上げれば、まさに子どもたちのやる気を起こして、主体的に学習に取り組んでもらうために、総合的な学習の時間での探求的な学習活動を行ったり、それからアクティブラーニングという、今回、学習指導要領の改訂の中で新たなキーワードとして入ってきますけれど、そういった取り組みを推進していくということでございます。

ここに三つの動けない要素ということで、「やりたい」「やれそう」「やらねば」という言葉を書きいただいておりますが、特に、この上の二つの、「やりたい」「やれそう」といったところを、そういった気持ちを、アクティブラーニングなどを推進する中で引き出していくと考えていくというふうに言えるのではないかと考えています。

具体的には、子どもにとって興味、あるいは関心のあるテーマというものを、授業の中

に取り入れるということと、それから、そのテーマに体験的なアプローチをする中で、子どもの考えや思い、それと今、現実とのずれなどから子どもが発見をしたり、あるいは驚いたりということで課題意識を育てていく。それが、その後の学習活動の原動力になっていくということで、子どもたちがやる気を持って学んでいこうと、そういうことにつながっていると私は考えています。

### ○藤崎委員

今の話を受けてなのですが。私が、まだ中学生の子を持つ親としてすごく感じるのですが、先生には、今、おっしゃっていただいた興味・関心を子どもたちに持たせるアプローチをしてほしいということです。「理科めっちゃおもしろいからね」とか、「数学できるとこんないいことが起こるのだよ」とか、国語力だとか、体育だとか、音楽だとか、とにかく先生自身が、それが好きだというものを前面に出してもらいたい。それは本心からはどうかは置いてです、大人は大人の世界があるので。ただ子どもたちに、何かおもしろそうだなと思わせる。それが、例えば30人学級であれば30人全員が一緒とは絶対限らない。なので、どの教科の先生も自分の得意な教科でそれを出していただいて、何人かが自分の好きな先生や好きな教科や好きな教室、仲間というのができてきて、前に進んでいくのかなと思うのです。

実はさきほどの「やりたい」「やれそう」「やらねば」というのは、そもそもそれは「やる気があって、それが出せない人」にやる気を出させるにはという前提なのです。先生方は多分「やる気とは何？」とか、「それ（やる気）を出す意味がわからない」とか、「やる気が持てない」という人とのやりとりにつづかっていると思うのですね。ここは、また何かちょっとサポートができるものがあれば、一緒に考えていかなければいけないなと感じました。それもちょっとあわせてお伝えしておきます。

### ○委員長

ほかにご意見、ご質問等はありませんか。

### ○尾形委員

ありがとうございます。この中で自信を持たせるというのは、とても大事だというお話があったのですが、不登校の子どもたち、不登校ぎみの子どもたちも、やはり自信がないということが多いと思うのです。ですから不登校ないし不登校ぎみの子どもたちを解消するためには、保護者や周りの人たちが、自信を持たせる言葉がけというのが大事かなと、そんなことを感じて見ていました。

子どもたちの1日の生活の多くは、やはり学校生活です。それで学校生活の大半が授業です。そうすると、授業の中で何かわかったとか、そういうわかる授業を展開するということが、最も大事なのかなと思います。わかった、できたという積み重ねが、子どもたち一人ひとりが自信になるのではないのでしょうか。その自信が「自分はこんなにいいところがあるのだ。」「やればできるのだ。」という自己肯定感が高められて、そして何事にも挑戦したりする意欲が湧くと思います。そういう意味で、この先生の話はすてきだなと思いました。

子どもたち一人ひとりに自信を持たせ、やる気を起こさせるために、大田区教育委員会では、習熟の程度に応じた指導や補習教室、それからまた様々な教師への研修などを実施しております。その結果、子どもたちの大きな成果が上がっているのかなと思います。ぜひ、今後ともよろしくお願ひします。特に放課後における補習教室を充実、発展して、全ての子どもたちに、わかった、できたという感動を持たせて、自信や意欲を持たせていただければありがたいなと思っています。

以上です。

## ○委員長

ほかには。

## ○鈴木委員

藤崎先生、ありがとうございました。

たまたま私も、これをちょうど今日で3回目です。最初テレビで見ました。非常に感動して、2回目ネットで見て、今日3度目見たのですが、何度見ても感動をさせられます。

そういった中で、学校で今、やる気にさせるという部分で、自信を持ったらいいというお話がございました。では自信を持たすにはどうしたらいいのだろうと思うのです。そういった中で、私はかねがね、学校の中で環境をととても大事に思っているのです。要するに教室の環境です、雰囲気です。

教職員に対しましては、非常に新しい方もいるし、何十年もやっているベテランの方もいらっしゃいます。その中で、今まで経験している中で、共育、共に育つという意味で共育というお話を、よく先生がなさることがあります。初任の先生は特にそうですし、ある程度年数を経た人も、時代とともに様々な社会の変化がありますので、そういった中で、共に育っていく部分があるかと思うのです。ですから自信を持つということは、ともに様々なことに関心を持って、できるだけ教室の雰囲気をよくしていく。

やる気になるということは、結局は雰囲気がよくて、その教室が楽しいということだろうと思っているのです。あまり理論的に難しいことではなくて、毎日の生活が大切だということ、私は思っております。常に私自身も成長中でございますので。幾つになっても成長中だろうと思います。

ですから、「どうせ無理」ではなく、「自分だったらこんなことができるから誰かの役に立つだろう。」「一緒にやったら、プラスアルファこんなこともできるだろう。」と、そういった毎日の中で育っていくのだろうかなと思いました。

「だったらこうしてみたら」という言葉が、非常に印象的でした。ありがとうございました。

## ○横川委員

ちょっと一言。私も、「だったらこうしてみたら」という言葉ですが、これは夢ということだけでなく、夢を求めるほうに誘導するほうにも使えるのではないかな。例えば患者さんに運動不足だね、だけど忙しくて歩けない、じゃあだったらこうしてみたらとこちらで提案をしてあげるといふことにも使えるのかなと思いました。大変勉強になりまして、

早速今日から使わせていただこうかと思えます。ありがとうございました。

### ○委員長

私も多分、これを見るのは二度目だと思うのですが。とても気になるのは、植松さんが小学校に入ったときに先生から嫌われて、お前はだめなのだということをさんざん言われたというところですね。あれを我々みたいな立場の人間はどう見るのか。

何だったのだろう、何か彼が嫌われるような子だったのだろうか、集団行動ができなかったのだろうか、もちろん想像するしかないのですけれども。逆に言うと恐ろしい話であって、あれだけかなり大きなことができる人の芽を潰していたかもしれない。たまたまおじいさん、おばあさんが非常に心の豊かな方、お父さん、お母さんも恐らくそうだったのでしょう。彼の心が非常に豊かだったから、そこをこなせたのでしょうけれども、逆に摘んだかもしれないと思うと恐ろしいことです。

あと、最近のネットの言論などを見ていると、どう考えても人の足を引っ張ることだけに生きがいを見出している人間というのが、相当数あらわれてしまっている感じがしています。どうも初動というか、小学校のところで場面は非常に大事であり、かつちょっと恐ろしい話だなという印象を受けました。結果的にいい話の流れに行っただけからいいようなものの、あの人逆の方向にあの能力を使い出すとしたら、それこそほかの人の夢潰しのほうを一生懸命にやるかもしれないという恐ろしさも感じました。

### ○委員長

では、よろしいですか。

(「はい」との声あり)

### ○委員長

ご報告、どうもありがとうございました。

それでは、次の日程に移ります。

日程第2について、事務局職員の説明を求めます。

### ○事務局職員

日程第2は、「委員長の選挙」です。

平成28年12月11日をもって、芳賀委員長の委員長としての任期が満了いたします。これに伴い、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第12条第1項により、委員長の選挙を行う必要があります。

### ○委員長

それでは、日程第2に基づき、委員長の選挙を行います。

選挙の方法については、大田区教育委員会会議規則第6条により、単記無記名投票と指

名推選の方法があります。いずれの方法で行うかお諮りします。

○鈴木委員

はい。

指名推選がよろしいかと思えます。

○委員長

ただいま選挙の方法について指名推選との発言がありましたが、ご異議はありませんか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

異議がないと認め、委員長選挙は指名推選によることとします。

それでは、委員長にどなたを推選しますか。

○鈴木委員

はい。

藤崎委員にお願いできますでしょうか。

○尾形委員

はい。

藤崎委員を推選します。

○委員長

藤崎委員を委員長にとの発言がありましたが、ほかに推選はありませんか。

(「はい」との声あり)

○委員長

この件については、委員の一身上に関する事案です。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第5項の規定により、当事者を議事に参与することはできません。しかし同条ただし書きの規定により、委員会の同意を得られれば会議に出席し、発言をすることができます。

委員の皆様にお諮りします。藤崎委員にこのまま出席いただいてよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○委員長

では同意が得られましたので、このまま会議を続けます。

藤崎委員を委員長に決定してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○委員長

全員の賛成をいただきました。よって、平成28年12月12日から藤崎委員に委員長に就任いただくことに決定します。

よろしく願いいたします。

○事務局職員

委員長、事務局です。

追加日程についてご説明いたします。ただいま、藤崎委員長職務代理者が新委員長に就任することが決定されました。これに伴い、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第12条第4項により、委員長職務代理者を指定する必要があります。

○委員長

それでは、委員長職務代理者の指定を行います。

指定の方法は、大田区教育委員会会議規則第6条及び第7条により、単記無記名投票と指名推選の方法があります。いずれの方法で行うかお諮りします。

○尾形委員

はい。

指名推選がよいと思います。

○委員長

ただいま、選挙方法について指名推選との発言がありましたが、ご異議はありませんか。

(「はい」との声あり)

○委員長

異議がないと認め、委員長職務代理者選挙は、指名推選によることとします。

それでは、委員長職務代理者にどなたを推選しますか。

○尾形委員

はい。

横川委員を推選します。

○藤崎委員

はい。

私も横川委員がいいと思います。

○委員長

横川委員を委員長職務代理者にとの発言がありました、ほかに推選はありませんか。

(「なし」との声あり)

○委員長

この件については、委員の一身上に関する事案です。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第5項の規定により、当事者は議事に参与することができません。しかし同条のただし書きの規定により、委員会の同意を得られれば会議に出席し、発言をすることができます。

委員の皆様にお諮りします。横川委員にこのままご出席いただいでよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○委員長

同意が得られましたので、このまま会議を続行します。

では、横川委員を委員長職務代理者に決定してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○委員長

全員の賛成をいただきました。よって、平成28年12月12日より横川委員に委員長職務代理者に就任いただくことと決定いたします。

よろしく願いいたします。

それでは、次の日程に移ります。

日程第3について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第3は、「部課長の報告事項」でございます。

○委員長

それでは、部課長の報告をお願いします。

○学務課長

私からは、「平成29年度新入学にかかわる指定校変更及び区域外就学」についてご説明いたします。資料をご覧ください。

1の基本的な考え方でございますが、こちらにつきましては昨年度と同様でございます。主な内容は、(2)にありますように、指定校変更については受け入れ可能人数から通学区内の入学予定者数を除いた人数を許可可能人数としまして、許可可能人数を超え

たときは指定校変更を希望する児童、または生徒について抽選を行い、入学許可者を決定するというものでございます。

また、(5)をご覧ください。大田区内に居住していない児童、または生徒の就学については、原則として許可しないという方針でございます。

2の小学校の学校別取扱いでございます。29年度につきましては、下の表に記載のとおりとさせていただきます。内容については、大きく分けて三つございます。一つ目は、一番上の受入れ停止でございます。こちらは、通学区域内の児童しか受け入れられないといった状況の学校になります。29年度は4校指定いたします。

二つ目は、その下から5行になりますが、こちらは通学区域の児童をまずは受け入れまして、教室に余裕があれば残りを指定校変更で受け入れるというものでございます。21校指定してございます。それから三つ目が、一番下のなしというものでございます。こちらは事前に制限は行いませんが、想定を超える申請があった場合には、上記の制限校と同様に取扱いをする予定でございます。

また、表の欄外に記載しております清水窪小学校の受け入れ人数でございますが、清水窪小学校はおおたサイエンススクールを実施してございます。このおおたサイエンススクールを希望の理由として指定校変更を希望する児童も含めまして65人、2学級の範囲内の受入れといたします。

裏面につきましては、今、申し上げました内容の詳細、あるいは特例について記載したものでございますので、後ほどご覧いただければと思います。

2枚目は、中学校の学校別取扱いでございます。こちらも下の表のとおりでございますが、指定校変更の受入れ制限を行う学校は、29年度は7校を予定してございます。

さらにその裏面には、平成29年度新入学にかかわる指定校変更制限校の受入れ見込みということで、1にありますように通学区域の児童で受け入れ可能人数に達し、受け入れができない可能性が高い小学校を6校記載してございます。

2につきましては、これまでの申請状況から、抽選になる可能性が高い学校を7校挙げさせていただいております。この一覧につきましては、事前に保護者にお知らせをすることで、申し込みの際の参考にしていただきたいということで公表する予定でございます。

今後のスケジュールでございますが、平成28年12月9日に新入学の児童につきまして就学通知書を発送いたします。12月15日から指定校変更の申請受け付けを行いまして、翌年1月13日までの申請者数に基づきまして、抽選を実施するかどうか、学校ごとに判断をしていく予定でございます。なお、区民への周知につきましては、大田区報の12月11日号で行うとともに、ホームページにもあわせて掲載をする予定でございます。

## ○委員長

ただいまの報告にご意見、ご質問はありませんか。

私から一つだけ伺います。

最後のページの「平成29年度新入学にかかる指定校変更制限校の受け入れ見込み」とい

う内容が、大田区報の12月11日号に載るということになりますか？

○学務課長

はい。

○委員長

わかりました。

ほかにご意見、ご質問はありませんか。

(「なし」との声あり)

○委員長

それでは最後に、新たに委員長に就任される藤崎委員、委員長職務代理者に就任される横川委員にご挨拶をお願いいたします。

○藤崎委員

皆様、改めましてこんにちは。

先ほどの選挙で、次期委員長に任命されました藤崎と申します。よろしくお願ひします。

私は、教育委員に最初に任命されたところから何も目指すところは変わっておりません。「子育てをするなら大田区」、この合い言葉を、親御さんたちにどう浸透させていくかを唱えてまいりました。これはまた来年も変わりなく、この1年、そこに邁進していきたいと思っております。

そのためには、先ほどの鈴木委員がおっしゃってくださった環境づくりが重要だと考えます。例えば、子どもたちの地域の安全からスタートし、安心して通える学校の環境、安心して学習ができる先生たちの質、それから親の不満や不安の解消のサポートという観点で、我々教育委員会ができることを考えることです。できない理由を探さないで、できる理由をみんなで知恵をひねっていきましょう。

皆さん、事務方にはいつも頭が下がる思いでいっぱいです。皆さんが考えてくださっていることに、我々の想いを乗せさせていただいて、さらに強固なタッグを組んで前に進んでいけるようにしていきたいと思ひます。1年、よろしくお願ひいたします。

○横川委員

委員長職務代理者に任命されました横川と申します。

私も藤崎委員長を助けて、大田区の子どもたちのために頑張らせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○委員長

では最後に、私からも一言挨拶させていただきます。

私は、4年間委員をやって、その後1年委員長をやらせていただきました。何か挨拶を

求められるたびに、同じようなことばかり言っているのですが。はっきり申し上げて、私が子どものときに受けてきた公教育よりも、ずっといい教育を大田区の子どもたちは受けているなというのが、もうどこに行ってもいつも痛感しているところです。

昨日も他の委員と一緒に館山さざなみ学校に行ってきましたが、随分手厚い教育を受けていらっしゃるなという意味で、感心いたしました。そういう意味で基本的な方向性は、このまま間違っていないというのを常々感じております。

任期はまだありますので、今度は普通の委員に戻って、やはり同じような方向を維持しつつ、さらに充実したものになるように努力していきたいと思っています。ありがとうございました。

これもちまして、平成28年第11回大田区教育委員会定例会を閉会いたします。

(午後 3 時00分閉会)